

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140 9 145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918
 発行人 内藤 留 幸
 編集主筆 竹澤 知代志
 印刷所 株式会社きかんし

17: イエスが旅に出ようとするのと、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」18: イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。19: 『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」20: すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。21: イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」22: その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。23: イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るの、なんと難しいことか。」24: 弟子たちはこの言葉を聞

いて驚いた。イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るの、なんと難しいことか。25: 金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」26: 弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。27: イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」28: ペトロがイエスに、「このとおり、わたしは何かも捨ててあなたに従って参りました」と言いました。29: イエスは言われた。「はつきり言っておく。わたしのためまた福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子供、畑を捨てた者はだれでも、30: 今この世で、迫害を受けるが、家、兄弟、姉妹、母、父、子供、畑も百倍受け、後の世では永遠の命を受ける。31: しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」(マルコによる福音書 10章 17～31節)

平和メッセージ

主にある命と平安

マルコによる福音書10章17～31節



小林 眞

不安を見抜く中で

今の時代、間違いなく誰もが平安を願っている。ただ平安と言っても、その内容は、その人の生活の状況によって多様だと思われる。

例えば、自分の個人的な魂の平安であったり、社会的な差別から解かれる正義であったり、具体的な戦争がなくなる平和などを願う

には「永遠の命は、自分の力や行いで受け得るもの」と考えていることが明確に出ていると言っています。主イエスも、それを分かって下さる方が「十戒」を示されると「そんなことはみな守っています」と自信を持って答えた。

いのである。主イエスは、この人の不安を見抜く中で、いつくしんで「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧

財産を捨てることは

なぜできなかったのか? 多少は、惜しいという気持ちがあったかもしれない。しかし、彼は死後の世界を求めていた故に、地上

にだけ通用する財産は捨ててもよかったのではないかと。またこの箇所を読んだ方が「財産を捨てないと永遠の命に与ることはできない」と理解し「マザー・テ

その意味で、主イエスは「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか(23節)」とおっしゃったのであるが、弟子たちには真意が分らず「それでは、だれが救われるのだろうか(26節)」と考え込むしかなかったのである。

「これは決して駄洒落ではない。賢いな鍋を食べて、これは漬塩だ何々産に違いない」と言う人は、多分料理漫画の登場人物だけだ。誰も一顧だにしないが、塩味は効いている。決定的に、ものを言う。昔、「ラビ」もなかつた時代の大海日、教員からいらした豪勢な寿司桶を囲んで、往生したことがある。煮炊きが禁じられている。煮炊きも醤油を持っていない。ケチャップ、マヨネーズもあるもの全て試したが、どうにもならない。塩の目方が材料全体の1%を超えたら、1%未満でも、果たすべき塩の役割がある。きいていないよすがが、確実にきいて

地と天の尺度の違い

この箇所では主イエスが一番語りかけたことは「地上の財産や確かさの中に、天の印を見いだす空しさ」であり、言い換えれば、地上と天における尺度の違いである。

その違いの理解が浅かった弟子たちが「ではだれが...」と問うたことはやむを得ないことかもしれない。それを受けて、主イエスは「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ(27節)」と、人間の行いの不確かさと、神の業の確かさを明確にされた。

わたしたちの信仰生活の行いは尊く大切なことであり、神さまも喜んで下さっているに違いない。しかし、

これを以て「命の担保」とすることはできない。「永遠の命」は、人間的・地上的保証のないところで、神自身が保証して下さるのである。

人間的保証のないところとは、人間の確かさがなく「罪のあるところ(告白)」と言っておく。そこに「神ご自身の確かさと業が明らかになる。」

この福音に与ることこそ信仰そのものであり、地上のどんな力ででも切ることのできない神さまとの永遠の関係に入ること。この福音の「命」なくしての平安は、心や魂の平安、正義や、平和などには果たして本物なのである。今一度、自分の求めている平安の内容を問い、より正しく「命」に与りつつ、福音に心える歩みを続けたい。

私に従いなさい

改めて見ると、主イエスは「わたしに従いなさい(21節)」とおっしゃったが、これは何を指すのか。翻って、この男との問答は、主イエスが旅に出る時である17節に記されている

が、この旅とはエルサレムに向かう旅であることは間違いない(32節)。つまり「わたしに従いなさい」とは、「エルサレムまで従って来なさい」ということであり、エルサレム

れなかったのは、地上の財産に固執したからではない。旧約聖書の時代から、財産は神の祝福の印」という考え方があったからである。

つまり、彼にとって財産を捨てることは神の祝福の印・保証を手放すことにはならず、それらを手放すことによって、永遠の命・祝福が与えられるとは到底考えられなかったからである。

CSの一場面。おふざけが過ぎる生徒に「いや、聞いてるふりくらいはしろ。礼儀としてもあるだろう」と聞かしている。「聞く気はないが聞かしているよの意味、じゃあ、今の説教を話してみろ。」は、十分の説教をほぼ完全に復唱した。やはりCS礼拝。未だ三歳の男の子が、説教の直後、ここに記した三行にもなる長セリフを言い、「どうして?」と。全く意味が分からない言葉も三行分も暗記出来る。子どもの記憶力は素晴らしいという話ではない。聞いていないようでも、聞かしている。そして、効いていないよすがもある。これは決して駄洒落ではない。賢いな鍋を食べて、これは漬塩だ何々産に違いない」と言う人は、多分料理漫画の登場人物だけだ。誰も一顧だにしないが、塩味は効いている。決定的に、ものを言う。昔、「ラビ」もなかつた時代の大海日、教員からいらした豪勢な寿司桶を囲んで、往生したことがある。煮炊きが禁じられている。煮炊きも醤油を持っていない。ケチャップ、マヨネーズもあるもの全て試したが、どうにもならない。塩の目方が材料全体の1%を超えたら、1%未満でも、果たすべき塩の役割がある。きいていないよすがが、確実にきいて



エルサレムにある園の墓、著者撮影

(遠州教会牧師)

みんなて生きる

MC JOCs

日本キリスト教海外医療協力会

～キリスト教医療ミッションの現場から～①

祈りと働き

愛に生きる・愛を為すこと

大江 浩



山内ワーカー、ラルシュのメンバーたちと

JOCsは、二〇〇七年に、バングラデシュのマインシンにある、CCH (Community Center for the Handicapped) へ山内ワーカー(理学療法士)を派遣しました。

CCH(一九九七年設立)は、地域に根ざした障がい者コミュニティセンターで、超教派の男子修道会であるテゼのブラザーたちのサポートにより始められました。外来患者のリハビリ・

地域巡回診療・職業訓練やグループ活動など多様な活動を行っています。山内ワーカーの役割は、CCHをベースとした巡回リハビリやスタッフの教育指導、テゼが運営に関わるラルシュ・コミュニティの知的ハンディのあるメンバー(後述)のリハビリなどで、他にもタツカや他の地域の障がいを持つ子どもたちのケアや、スタッフとなる人材の育成にも携わっております。CCHは今、脳性まひの子ども七〇〇人、それ以外の障がいを含めると延べ三〇〇〇人の障がい児をケアしています。障がい者の支援と一口に言っても車椅子も、義肢も、足、靴にいたってもその人の「暮らしや生の営み」を

一月十一日を「建国記念の日」として制定実施された一九六七年以来、私たち日本基督教団は、この日を「信教の自由を守る日」として、各地で2・11集会を開催し、「建国記念の日」の祝日に対して異議を訴え続けてきました。

2・11メッセージ

それは、国民の祝日に関する法律(以下、祝日法と記す)では、2・11日を「建国記念の日」として、「建国を偲び、国を愛する心を養う」と規定されていますが、そもそもこの日は、神話上の人物とされる神武天皇が即位した日とされている日で、「一八七四年に「紀元節」と決められて以来、「紀元節」として守られていた祝日であり、敢えてこの日を「建国記念の日」と定めたからであります。つま

り、日本の国は天皇によって建国され、その国を愛する心を養うというのが、「建国記念の日」制定の意図だからです。祝日法の改定によって二〇〇七年からは、四月二十九日の昭和天皇誕生日が「昭和の日」と制定されました。「海の日」は明治

天皇に由来し、「春分の日」、「秋分の日」、「文化の日」、「勤労感謝の日」、「天皇誕生日」等、国民の祝日には、天皇や皇族と関連して定められているのがあります。この意図は、天皇制が国民の日常生活から遊離しないように仕組まれていること

は、明白であります。この最も顕著な例は、「日の丸・君が代」の強制的な押し付けであります。これは日本国憲法19条で保障されている思想・良心の自由及び20条の「信教の自由」を完全に否定している行為であります。この強制に信教的・良心的理由から反対した公立学校の教職員たちが罰則を受けるという憂うべき状況にまで至っています。今では、私立のキリスト教主義学校にまで教育委員会より強い要請があるときまます。

2・11日を迎えるに当たって、「信教の自由」が堅持されるようにと発言していくことが、極めて重要な宣教の課題であります。各地での集会の上に、神の祝福を祈ります。日本基督教団総会議長 山北宣久

に乗ってマイメンシンのラムの小さな家から毎日通うようになりまし。アイシャは冗談を言い、そして歌います。両足があった時よりも今の方が幸せだと彼女は言います。(JOCs 2007年度夏期募金趣意書より)



プッシュボニールのメンバーとアシスタント

それぞれの人生には、それぞれのストーリーがあります。「障がい」を取り巻く状況は多種多様です。女性や子どもたちが虐げられている深刻な現実や構造的暴力の問題が透けて見えます。JOCsは、ワーカーを通して、それら一人ひとりの生き様に寄り添っていきたく思います。私は二〇〇八年二月にマイメンシンを訪れる機会が与えられ、スラム地区の巡回活動(家庭訪問と障がい児のためのリハビリ)に随行しました。イスラム教のコミュニティで、多くの子どもたちと家族が一部屋で肩寄せながら暮らす社会です。環境は決してよくありません。子どもたちはそれぞれに障がいの種類・度合いが異なります。障がいの故に排除されてきた子どもたち

ちもいます。温かい手を差し伸べながら、丁寧に誠実に機能訓練をするCCHスタッフ・アレックスの姿に感銘を受けました。彼は少数民族出身で、テゼのブラザーたちの支援を受けながら学んできた人です。今の仕事に生きがいと誇りを持っています。テゼの祈りが育てた貴重な人材の一人です。巡回リハビリで訪れた家庭は皆最貧層で、バングラデシュの国籍も無く、生きる権利を奪われた人々でした。地に根を張って生きる姿が目に焼きついていきます。CCHは施設に頼らず、

地域に根ざした障がい者の自立支援の活動において、バイオニア的存在です。すべての働きの根底に「祈り」があります。山内ワーカーは、岩本直美ワーカー(看護師)がコミュニティリーダーを務めるラルシュコミュニティのメンバーにもリハビリを通して関わっています。岩本ワーカーは、三つの家(希望の家・シヨブノール(夢の家)とワークシヨップ(工房)、そしてデイケアをまとめる立場にあります。

ラルシュコミュニティは、ジャン・ヴァニエが一九六四年に知的ハンディのある二人の青年を迎え、共に暮らしたことから始まりました。知的ハンディのあるメンバー「仲間たち」とその人たちの暮らしをサポートする「アシスタント」からなるコミュニティで、



テゼ共同体、ブラザーフランク

生活・作業・祈りから成り立っています。ジャン・ヴァニエはかく語り。弱いは、強い人が必要ですが、しかし強い人もまた弱い人を必要としていることがラルシュにおいて分かってきました。知的ハンディを持つ人のもろさと苦しみに触れ、その時、彼らが私を信頼してくれると、私の中にもやさしさの新しい泉が湧き起こるのを感じました。(ラルシュのこころ 小さい者とも、神に生かされる日々)ジャン・ヴァニエ(一麦出版社より)そして静岡の「ラルシュかなの家」を創められた佐藤さんの言葉(同書より)です。「ラルシュのコミュニティは、様々な弱さ、貧しさを持つ逆説を示しています。多くの人が投げ捨て、端に追いやられてしまっていることが、恵みと一致と解放と平和の道になるというものです。なぜなら貧しい

人の中にこそ、神の力が働くからです。(同書 記者：佐藤仁彦)テゼの一日は祈りに始まり、祈りに終わります。テゼのブラザーたちの祈り、働く姿は、「イエスの生き方」に通じます。山内ワーカーは、「ここ(マイメンシン)は神様に近い場所」だと語り。日本は物の豊かさはあるても、心は貧しく愛から遠く飢え渴いた世界があります。テゼのすべてのスタッフの「地の塩」としての働き、即ち信仰が支える愛の行為が神様に近づくことであるように思えます。向き合う人々に支えられ、貧しさで闘いながら、豊かさを得るJOCsの現場、貧しく小さくされた人が「世の光」であり、その中にイエス様の愛を見出します。そして私たちが共に祈ること、支えることがまさに「愛を為すこと」であると学ばされています。(JOCs総主事)



岩本ワーカー、ラルシュのメンバー・アシスタントと共に

「宣教師内規」最終段階へ

第6回世界宣教委委員会

去る一〇月七日(火)、第六回世界宣教委委員会が開催された。

第35総会期の最後の委員会となったため、多くの議事をこなしながら、継続性のあるものは、次期総会期委員会および実務会へ申し送り事項とした。

まず、海外の受け入れ宣教師に関して、「宣教師内規」の内容を概ね確定することができた。現在は最終段階にある。その手続きを次期委員会へ申し送った。

また、派遣宣教師の派遣体制も整備しつつある。現在検討中の宣教師派遣先は、北南米の四つの教会である。応募者への対応や手続きは、次期委員会へ継続とした。

その他には、今年度四月に実施した北米米退任宣教師

感謝ツアーが大変好評であったこともあり、二〇〇九年度にも、ドイツとカナダの退任宣教師感謝ツアーを実施することが決定され、準備委員会が組織された。

なお、委員会の当日に、台湾より帰国した服部真奈宣教師が出席した。帰国報告を受け、その労をねぎらった。

振り返れば、世界宣教協会が改進黨教会との宣教協約調印が実現する運びとなつたこと、主なる神の導きと祝福を抜きにしては考えられない。

今後の世界宣教委委員会の働きが主のご計画の中で豊かに示されることを祈りつつ、第35総会期最後の委員会報告を終えたい。

(上内鏡子報)

力委員会が世界宣教委委員会として新しく組織されて以来二年間、世界宣教の位置づけや宣教師人事手続き整備のために、委員らが尽力してきた。委員会そのものの存在意義を再検討する必要があるとされるものもあつた。そのような多くの課題の中にあつても、アメリカ合衆国長老教会およびアメリカ

リカ改革派教会との宣教協約調印が実現する運びとなつたことは、主なる神の導きと祝福を抜きにしては考えられない。

今後の世界宣教委委員会の働きが主のご計画の中で豊かに示されることを祈りつつ、第35総会期最後の委員会報告を終えたい。

(上内鏡子報)

人権教育は神学校の大きな課題

第21回神学校等 人権教育懇談会

第二一回神学校等 人権教育懇談会が十一月十日(月) 教団会議室で行なわれた。

各神学校・大学、教会より一〇名が出席して共に懇談し、学びの時を深めた。

開会にあたり礼拝をささげ、大住雄一東京神学大学教授は、コリントの信徒への手紙第一より、わたしどもがクリスチャン生涯の一番根底にあるものは主イエ

スの十字架の贖いの恵みである。この贖いの恵みに応答してゆく中でこの地上生涯の証の歩みがなされてゆく。その中で人権の教育は各神学校の大きな課題である」と語り、祈りが捧げられた。

続いて谷本一廣部解放センター活動委員会委員長が、自分の体験を通じつつ部解放運動に立ち上がった。

その中でも米米留学時代の代表として、高柳富夫村伝道神学校教師によつて、農村伝道神学校の現在のカリキュラムと次年度の

カリキュラムをも含めた人権教育に関する講演が持たれた。

「同神学校では現場に出て行って、そのところに存在する問題を共有し、共に生きる。『現場主義』を大切にしてゆきたいと考え、カリキュラムにおいては、アジア近代史や解放の神学の学びに力を注ぎ、語学もアジア言語を学ぶ環境を整えてゆきたいと考えている」と語った。これに関してはいくつかの神学校から質問があり、多様な伝統の神学校の教育方針があることを感じさせられた。

今回は午後からの半日プログラムであったが、もう少し時間をかけ、また現地研修等も兼ねて学びができれば良いとの意見も出た。

(東京聖書学校)

南支区 教会の歴史的課題を思う

橋爪忠夫

南支区は、東京都内三区内の一部に広がる区域の三〇教会で構成されている。中でも百年の歴史を越える教会が五、八〇年を越えるものが六、逆に戦後に生まれた教会は八である。総じて長い歴史をもっている。一八七三年生まれの旧・東京公会、現・新栄教会もある。

従って、どの教会も直面している課題は、いかにそれぞれの教会

の歴史を振り返り、その伝統をしっかり把握して、将来への展望を切り開くかである。その課題は大きい。私はこの教会の伝統について様々に考えさせられている。一つは、私たちの教会は圧倒的にアメリカの教会の影響を受けていることだ。教会というものの発想も、実際の活動も敢えて言えばアメリカ型で、ヨーロッパ型のそれではない。宗教史家・E・ミードは、アメリカの教会を一口で「自由教会」として、その特徴を

の歴史を振り返り、その伝統をしっかり把握して、将来への展望を切り開くかである。その課題は大きい。私はこの教会の伝統について様々に考えさせられている。一つは、私たちの教会は圧倒的にアメリカの教会の影響を受けていることだ。教会というものの発想も、実際の活動も敢えて言えばアメリカ型で、ヨーロッパ型のそれではない。宗教史家・E・ミードは、アメリカの教会を一口で「自由教会」として、その特徴を

教区コラム

非歴史性、自発に基づく原則(ウーランタリズム)、伝道事業、リヴァイスム、敬虔主義、相互の競争の六つにまとめている。これら諸点の功罪を見つめ直して、道を切り開く以外にはないであろう。

南支区ではずっと支区としてアメリカの教会の影響を受けていることだ。教会というものの発想も、実際の活動も敢えて言えばアメリカ型で、ヨーロッパ型のそれではない。宗教史家・E・ミードは、アメリカの教会を一口で「自由教会」として、その特徴を

常設委員会等選考結果

招集者、信徒

- 【宣教委委員】七名
小出 望静岡草深、小西 望仙台北、篠浦千史(さや)、平山正真(四條町)、鈴木優子(小松川)、具志堅(読谷)、古原雄雄(福岡中部)
- 【教師委員会】七名
松井 睦聖徒、雲然俊美(秋田)、西澤他重(甲東)、森里信生(関西学院)、堀真知子(瀬戸キリスト)、張田 眞鳥居坂、高橋敏(下松)
- 【信仰職制委員会】七名
岡本知之(西宮)、須藤 繁谷村、一條英俊(札幌)、岩橋常久(南大)、小友 駿(東京神学大)、菅原 力(町本郷)、芦名弘道(近永)
- 【教師検定委員会】七名
希子(真駒内)、東野尚志(倉野ノ下)、渡部和使(名古屋)、菅根信彦(神戸)、武田真治(広島)
- 【予算決算委員会】七名
伊藤瑞男(静岡)、長島 恵子(鴨島兄弟)、小平正(真代々木中部)、山下 光(水沢)、寺門文雄(代田)、稲垣正策(函館千歳)、山上清之(桜木)
- 【世界宣教委委員】五名
木下宣世(西千葉)、岡村 恒(大阪)、村山盛芳(浪花)、秋山 徹(上尾合同)、藤吉求理子(道北クリスチヤンセンター)
- 【伝道委員会】七名
山岡 創(坂戸いずみ)、岩田昌路(柏)、米倉美佐(男聖和)、小林克哉(呉平)、竹井真人(波浮)、北川 善也(洛北)、竹内款(神戸雲内)
- 【教育委員会】六名
黒田若雄(須崎)、浅見 寛(枚岡)、北畠友武(門司)、山畑 謙(小金井緑町)、的場 美子(下田)、小林 光(熱田)
- 【社会委員会】六名
福井博文(長崎古町)、森田 恭一郎(遠州栄光)、上森 俊明(丹後宮津)、釜土達雄(七尾)、土井しのぶ(高梁)、大川 清(岩国)
- 【宣教研究所委員会】七名
宮本義弘(沼津)、上田光正(美竹)、神代真砂(東京神学大)、長谷川洋介(石岡記念)、飯塚拓也(竜ヶ崎)、田中かおる(安行)、越川弘英(同志社大)
- 【出版局理事】監事
理事 九名 小島誠志(松山番町)、橋本 徹(ケ丘)、持田二郎(池袋西)、望月克仁(鎌倉雪ノ下)、深井智朗(滝野川)、齋藤 豊(富士見町)、佐々木美知(夫静岡)、内藤留幸(総幹事)、有澤博(年出版局長)、監事 二名 遠藤 道雄(坐間)、豊
- 【年金局理事】監事
理事 二名 高橋 豊(西東京)、井上昌保(北海)、邑原宗男(奥羽)、遠藤 雄(東北)、足田國磨(関東)、古屋博規(東京)、中林克彦(神奈川)、未定(東海)、大杉 弘(中部)、
- 【部解放センター】運営委員 監事
運営委員 十七名 東谷 誠(大阪)、浅居正信(海)、江戸 清(奥羽)、片岡 謁(東北)、生地善人(関東)、龜岡 顕(東京)、河村 博(西東京)、井殿 準(神奈川)、加藤 誠(東海)、大住 元(中部)、宮田普夫(京都)、木村知樹(兵庫)、小松 茂夫(東中国)、柴田もゆる(西中国)、野村和男(四国)、多田玲一(九州)、未定(沖縄)
- 【会堂共済組合理事】監事
理事 七名 久山庫平(河辺)、長倉 勉(三島)、片桐郁夫(和戸)、小林正樹(埼玉)、刀禰雅介(生田)、中尾 久(川崎)、松下充孝(大宮)
- 【隠退教師を支える運動】推進委員 七名
大杉 弘(若草)、井上昌保(野幌)、奥野力(膳所)、滝川英子(里)、宮澤淳子(須坂)、森 啓(梅ヶ丘)、多田 信一(下谷)

消息

丸尾俊介氏(隠退教師) 九月二十六日、逝去。八十一歳。兵庫県に生まれる。一九五五年関西学院大学大学院修了後、伏見教会に赴任。その後、五九年から二〇〇〇年まで下落合教会牧師を務め、隠退した。遺族は妻の美津穂さん。

土居通昭氏(武蔵野緑教会牧師) 十一月十二日、逝去。六十七歳。愛媛県に生まれる。一九六六年関西学院大学大学院修了後、神戸栄光教会に赴任。その後、秋、福岡女学院、芦屋山手各教会牧師を務め、二〇〇六年から武蔵野緑教会を牧会した。遺族は妻の比呂美さん。

藤代泰三氏(無任所教師) 十二月五日、逝去。九十一歳。東京都に生まれる。一九四〇年青山学院神学部卒業後、同志社大学文学部神学で学び、五二年から八七年まで同志社大学神学部神学教師として奉職した。遺族は妻の幸さん。

事務局報

補教師登録
山田富稔 (二〇〇八・十二・二受允)
金正謨 (二〇〇八・十二・二受允)
正教師登録
安倍愛樹(姜 徑米、西田浩子、山口俊明 (二〇〇八・十二・三〇受按))
大矢真理 齋藤 篤、関谷慶太、外山志都子、仲野隆介、池田多美男、四之宮早苗、秋葉恭子、小田島修治、小友 睦、高 承和、谷口裕子 (二〇〇八・十二・二受按)
河合佐紀梁、在哲 (二〇〇八・十二・二受按)
工藤尚子、迫田満寿枝、鈴木賢美、田中郷史、腎奈津恵、藤川綾子、山崎睦子、柳田かおり、(二〇〇八・十二・二受按)
伊藤英志、小森裕之、中村謙一 (二〇〇八・十二・二受按)
飯島隆輔、飯島 信、関根泰代 (二〇〇八・十二・二受按)
教師異動
大阪住吉 辞代(田中逸衛) 就主(脇田真一) 本庄旭 就代(秋山 徹) 武蔵野緑 就代(天宮 溥) 関西学院 就担(神谷 宣) 教師隠退
金城重明
教会所在地変更
見附 見附市南本町二一七-四
長野県 長野市東町五二五-一七
諏訪 諏訪市諏訪三一四-八

牧師のパートナー

例えば、こんな質問をしました。「お母さんは妹の私には「ほんの手伝いをしろ」と言うけど、お兄ちゃんには言わない。これをおかしいと思うか、思わないか」。意外な反応が女子からありました。「それは仕方がない、だって女なんだから」。また、次のような質問も。「赤ちゃんを産んだ女性が仕事をやめて育児に専念する。これをおかしいと思うか、思わないか」。これに対しては「子育てはお母さんの責任だからおかしくない」。お父さんなら、突然怒り出して赤ちゃんを放りだしてしまうかもしれない。

思いがけないところで...

片岡 輝美
(若松栄町教会員)

「お母さんが妹の私には「ほんの手伝いをしろ」と言うけど、お兄ちゃんには言わない。これをおかしいと思うか、思わないか」。意外な反応が女子からありました。「それは仕方がない、だって女なんだから」。また、次のような質問も。「赤ちゃんを産んだ女性が仕事をやめて育児に専念する。これをおかしいと思うか、思わないか」。これに対しては「子育てはお母さんの責任だからおかしくない」。お父さんなら、突然怒り出して赤ちゃんを放りだしてしまうかもしれない。

な発想に教室が大笑いになってしまふこともありました。そして、授業のまとめです。私のまとめは「平等の始まりは、自分を愛するように隣人を愛すること。自分を愛するとは自分の命やからだ、考え方生き方を大切にすること。それが、自分らしく生きていくっていうこと。そうならば、自分以外の人の命もからだも生き方も、自分のと同じように、大切に思えてくるよね。キリストの「キ」も神の「か」も口にはしません。伝えることは、もちろん聖書のメッセージそのもの。さらに、「あなたは何を大切に、どのように生きていきたい?」との問いかけにどの子も深い深い思考の中へ。その表情はあまりにも真剣で美しく、私が圧倒されたほどでした。「こんなこと聞かれたことも考えたこともなかった」と、感想を書いた子どもたち。同行してくださった市役所職員からは「最後のまとめは教会で話されていることですか?」との問いかけ。故郷に帰り、地域との関わりのなかから与えられた経験でした。聖書のメッセージは思いもかけない時に予想もしない場所で伝えられていくようです。嬉しいことに、最後の授業は私と息子たちの母校 K 小学校でした。

私の両親が牧会する若松栄町教会に夫が牧師として赴任してから二四年。四人の息子たちが成長し、昨年三月に四男が私の母校 K 小学校を卒業。私の六年間+子どもたちの十七年間+二三年間+人生のほぼ半分を過ごしました。PTAとしての関わりもあつたため、母校との別れに寂しさを覚えた昨年の春でしたが、秋には喜びにあふれた経験をしました。

会津若松市企画調整課男女共同参画推進事業の一環「子ども人生講座」の講師としての依頼を受け、市立六小学校十九クラスの授業を担当したのです。テーマは「男女平等を考える」。



男女共同参画事業「子ども人生講座」、母校 K 校にて

「お母さんが妹の私には「ほんの手伝いをしろ」と言うけど、お兄ちゃんには言わない。これをおかしいと思うか、思わないか」。意外な反応が女子からありました。「それは仕方がない、だって女なんだから」。また、次のような質問も。「赤ちゃんを産んだ女性が仕事をやめて育児に専念する。これをおかしいと思うか、思わないか」。これに対しては「子育てはお母さんの責任だからおかしくない」。お父さんなら、突然怒り出して赤ちゃんを放りだしてしまうかもしれない。

隠退教師を支える運動 東海教区・西静分区推進座談会



二〇〇八年十月三十一日(金)十一時三十分から一四時三十分まで、隠退教師を支える運動・一〇〇円献金の東海教区・西静分区推進座談会を遠州教会で開きました。

開会礼拝で中遠教会・兵藤辰也牧師からテモテへの手紙(6章13、19節)を通して、「私たちに福音を言え、信じて導き、指導して下さって、隠退された先生方に感謝し、すべてのことが神様の御恵みの内に行われていることを信じます」とのメッセージを受けました。

昼食を共にしながら、各出席者の自己紹介があり推進座談会に入りました。

「隠退教師を支える運動」多田信一委員長から日頃の「一〇〇円献金」に協力下さっていることへの感謝の意をこめて挨拶を、櫻井淳子年金局業務室長からも挨拶がありました。

折しも、十一月三日(日)が「謝恩日」であることから謝恩日献金のご説明をいたしました。

質疑応答の中では、年金

制度の具体的な事柄、例えば給付に關しての質問があり、櫻井室長と三島教会・長倉勉牧師(年金局理事)が丁寧な答弁をしました。

また隠退教師を支える運動の瀧川英子委員から、教会の中で「一〇〇円献金」を行う場合の実際的な事柄について説明がありました。

教会の用で外出していた遠州教会・小林真牧師も途中で参加しました。

「隠退教師を支える運動」は、一九七八年秋に開催された第20回教団総会で全国的に推進することが可決されて三〇年経ちました。また東海教区としては十八年かけて、今回の西静分区を含め六分区全部で推進座談会を開催することが出来ました。この間、この献金運動に参加・協力をして下さいました各教会・信徒の皆様が改めて感謝をいたします。特に一つひとつの教会に中々献金のお世話をしてくださっている奉仕者の皆様にご心から御礼申し上げます。

(多田信一報)



田中 顕さん

主にまかせよ



1954 年生まれ。54 歳。洛北教会員。

主にまかせよ 汝が身を
主はよこび 助けまさん

大学四年になる時、学びに意欲を失い、一年間休学し、大学のあつた北海道から帰省して京都の実家で過ごした。

生きる目的が見いだせなかった。「自分病」のただなかにいる時、信仰の先輩が、この讃美歌を歌い祈ってくれた。自分中心の思いと甘えを論され、神様に心を開ける必要を教えられた。家業を手伝う中で復学への思いを固めていったが、心の闇は消えることがなかった。

そんな中出席した無教会の聖書研究会の中で、自分の罪深い歩みを告白し、主の十字架の贖いと赦し無しに歩めないことに

気がかされた。その経験を通して、信仰を持つ両親と祈りを合わせ、礼拝にも出席するようになった。

復学、卒業後も無教会の集いや教団の教会の礼拝に出席していたが、職場は日曜日も交代で日直があり、自分の趣味にも心奪われ徐々に神様から遠のいてしまった。

そのような中で妻と出会い、結婚式を教会で挙げることにしたが、結婚の日が近づくと、思いが向かったのは洗礼のことだった。罪赦され主に生かされてある自分と想うのなら、まず洗礼を受けるべきではないか。祈りと思索の末、当時

無牧だった帯広教会に洗礼志願をし、結婚準備と洗礼準備を一緒に役員がしてくださった。

受洗後間もない頃、苦難の時に、神様は多くの方の祈りと支えとを与え、逃れの道を備えてくださった。主にまかせ、主に委ねる時、たといそうでなくとも、主は良き目に見える解決を与えてくださった。

洛北教会に導かれ、御言葉の養いを受け、主のものとされた者として、主を信じ、主に委ねるべきことを、礼拝と教会の群れの中で教えられた。

家族共々、神の家族の一員としての喜びを味わいつつ歩んでいる。

大晦日の夜、午後十一時半から教会の除夜元日礼拝が始まった。賛美があり、祈りがあり、ちょうど説教の途中で新年を迎えるのである。誰も時計を見ないし、年が移る瞬間を気にしてもいない。ただ語られる神の言葉に聴き入っている。普段の主日礼拝では決められた時に御言葉が語られている感覚を持つのだが、ここには御言葉が語られる中で時が過ぎていくという感覚があった。これは幸いな経験である。

信仰生活に於いて自分の生きる時と場に御言葉を聴くことは私共

御言葉の中を歩む

にとつて大きな恵みである。そして神の言葉が語られる中に自分の人生が過ぎていくという事実は本当に素晴らしい恵みである。今頃、そんなことを言っているのかと思われているのかもしれない。しかし天に帰られた多くの先達の信仰の言葉、その病床で聞かれた信仰の喜びが自分の中にも染み込むように嬉しのである。

新しい年が与えられた。この年も教会は命の御言葉を語り続けるのであるし、その中に私共は生かされて行く。主が再び来たり給う日に向かって神の確かな時が流れていることが私共の希望であり、これを証するのが私共の歩みである。混沌と不安が叫ばれる時代の中で私共が与えられ持っているものをどれだけ差し出せるのかが問われるのである。伝道は信仰の喜びが用いられる出来事である。プロテスタント伝道150年を記念する年、御言葉の中を歩みたい。

(教団総会副議長 佐々木美知夫)